

令和 7 年度 地域公共交通に関する自己評価概要（全体）

江南市地域公共交通会議

平成19年 6 月27日設置

（令和 7 年 3 月 法定協議会に移行）

平成30年 3 月 「江南市における地域公共交通の基本的な考え方」策定

（令和 7 年 4 月改定）

■ 地域の特性と背景

- ・市東部から南部にかけて名鉄犬山線が走り、江南駅、布袋駅が存在。
- ・名鉄バスが10路線、大口町コミュニティバスが3路線運行。
- ・市内全域で、いこまいC A R※¹を運行。計画的な昼間のお出かけに対し、路線バスを補完するものとして市民の足を担う。

- ・第6次総合計画では、以下のとおり拠点を位置付け、中心拠点－地域拠点間や、中心拠点同士を交通ネットワークで結び、住みやすく利便性の高いコンパクトなまちづくりをめざす。

『中心拠点』…江南駅・布袋駅を中心とする区域

『地域拠点』…江南厚生病院～KTXアリーナ周辺

(江南市スポーツセンター)

曼陀羅寺公園～江南団地周辺

■ 公共交通の基本的な方針

- ・コンパクトエリアについては、鉄道や路線バスを中心に市民の足を確保。
- ・コンパクトエリア外については、既存の公共交通をできる限り維持。
- ・市内全域で、路線バス等でカバーできないエリアはいこまいC A Rを運行。
- ・路線バス・いこまいC A Rで対応できない場合は、福祉タクシー（福祉施策）や通常のタクシーで市民の移動を担う。
- ・地域主体の新しい公共交通サービスの導入についてルールを定め、支援を行う。

※1 市民の市内の移動手段として市が、運行するタクシーを利用した交通サービス

地域が主体となって、新しい公共交通サービスを導入する場合は、ルールを定め、必要な支援を行う。

コンパクトエリアは、鉄道・路線バスを中心に市民の足を確保。

コンパクトエリア外については、既存の公共交通をできる限り維持する。
市内全域で、路線バス等でカバーできないエリアはいこまいC A Rを運行する。
福祉タクシーや通常のタクシーも足を担う。

令和7年時点の市内公共交通（鉄道・路線バス）

- 名鉄犬山線
- 名鉄バス
- 大口町コミュニティバス

■ 取組期間(総合計画と連動)

平成30年度～令和9年度

政策評価

指標	設定理由と対策	算出方法
市民一人当たりの公共交通利用回数	利用回数の推移について、変動理由を考察。 公共交通政策の方向性の確認を行い、事業に反映。	・路線バスの利用者数（名鉄バス株式会社より提供） ・いこまいC A Rの利用者数（江南市が集計） ・大口町コミュニティバスの江南市内の停留所の利用者数（大口町より提供） R7.4月からR8.3月の上記人数を合計して年間の利用回数を算出し、年度末時点の人口で割って算出。 名鉄バスの利用人数は、古知野線（2路線）、江南・病院線、江南団地線（4路線）、木曽川線、一宮・宮田線（2路線）の路線別利用者数の合計とする。

事業評価

評価対象	指標	設定理由と対策	算出方法
路線バスの維持確保(補助路線)	利用者一人当たりの市負担額の推移(路線別評価)	路線別の推移について、変動理由を考察。 事業評価で報告し、事業の維持・改善に反映。	下記の補助路線における、当該年度の補助金を、補助金算定期間であるR6.10月～R7.9月の利用者数で割って算出。 ・江南・病院線 ・江南団地A線(古知野高校経由) ・江南団地D線(ヴィアモール経由) ・江南団地E線(団地経由江南厚生病院行)
いこまいC A Rの維持確保	市負担額の推移	事業費の変動内容から、変動理由を考察。 事業評価で報告し、事業の継続または見直し内容に反映。	該当年度の決算額を利用。

令和7年度に掲げた対応方針	
公共交通政策	・地域住民のニーズ、及び既存公共交通の課題について公共交通基礎調査を行い、その結果を踏まえた政策となるよう、地域公共交通計画策定に向け、地域公共交通会議等での協議・検討を進めていく。 ・江南市北部地域において地域懇談会を実施し、地域のニーズを把握し、新たな地域公共交通の導入の可能性を検討する。
名鉄バス	・名鉄バス株式会社と連携して、次世代の利用者である子どもを対象とし、路線バスを利用してもらえるようなイベントを実施し、バスの利用促進を図る。 ・江南団地E線の利用実態調査を続けるとともに、沿線住民のニーズを把握する調査の実施を検討する。
いこまいCAR	・タクシー料金の改定の影響を把握し、翌年度以降の利用回数や市負担額への影響額を推計する。



令和7年度の具体的取組み事項	
公共交通政策	・公共交通基礎調査（公共交通の現状把握、市民アンケート、公共交通利用者アンケート等）によりニーズや課題を整理し、地域公共交通会議等において報告、共有した。 ・市北部地域3箇所で地域懇談会を開催し、地域の移動需要等を確認し、新たな公共交通の素案を作成した。
名鉄バス	・ヴィアモールアピタ江南西店において名鉄バス株式会社と連携し、ちびっこバス運転士体験を開催した。 ・国土交通省、名鉄バス株式会社と連携し、名鉄バスを利用してフラワーパーク江南に来園した方にエコバッグを配布した。 ・江南団地E線のうち、特に利用者が少ない江南団地と江南厚生病院間のバスに乗車し、利用実態を把握した。 ・市民アンケート調査の結果を分析し、江南団地E線の沿線地域住民のニーズを把握した。
いこまいCAR	・タクシー料金改定の影響について、過去のタクシー料金改定での利用状況の推移を参考に料金改定後の利用回数や市負担額を推計した。

■ 政策評価

指標	H28(基準年)	R6 (前年)
市民一人当たりの公共交通利用回数	11	9

(単位:回/人) ※小数点以下四捨五入

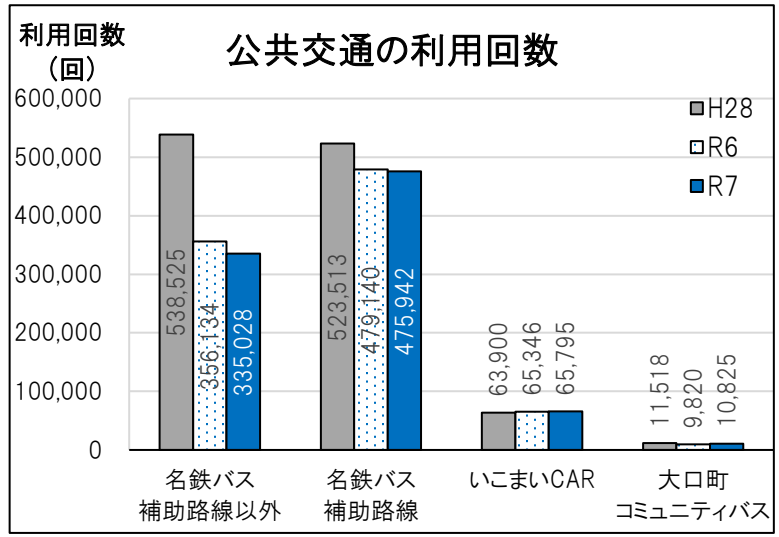
R7 (評価年)	評価
9	△

【参考】 利用回数内訳

内訳	H28(基準年) (H28.4～H29.3)	R6(前年) (R6.4～R7.3)
名鉄バス補助路線以外	538,525	356,134
名鉄バス補助路線	523,513	479,140
いこまいC A R	63,900	65,346
大口町コミュニティバス	11,518	9,820
合 計	1,137,456	910,440
年度末時点人口	100,915	97,928

(単位:回,人)

R7(評価年) (R7.4～R8.3)
335,028
475,942
65,795
10,825
887,590
97,598



評価に関する考察

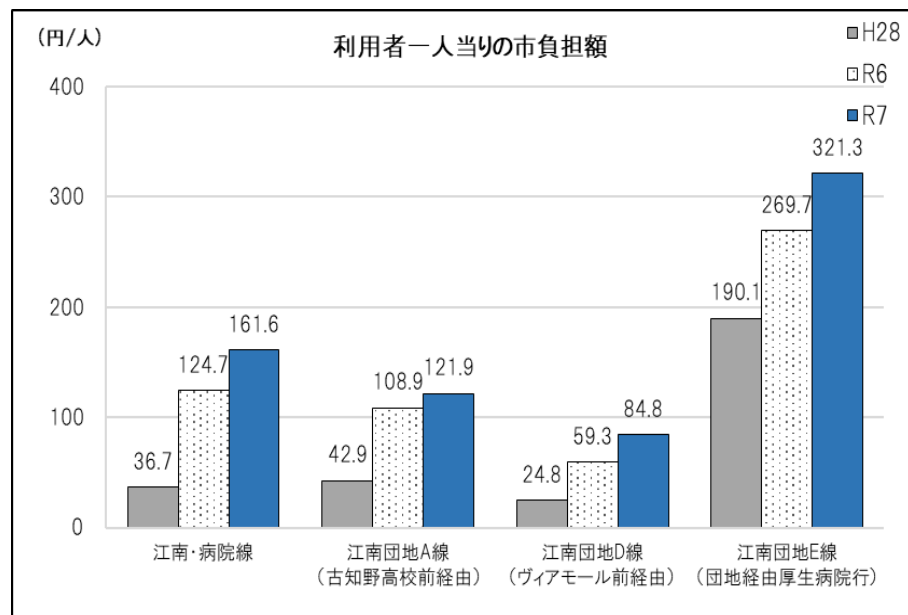
- ・ 名鉄バス補助路線以外の利用回数が、基準年（H28）と比較し大幅に減少したのは、市内の私立中学・高校において、令和3年10月から一宮駅を発着するスクールバスの運行が始まったことが主な要因と推測する。
- ・ 大口町コミュニティバスの利用回数が、前年度と比較し増加したのは、尾崎町バス停と北山町バス停の利用者の増加が主な要因と推測する。
- ・ いこまいCARの利用回数が、前年度と比較し増加したのは、令和7年4月から福祉タクシーチケットとの並行登録が可能となったためと推測するが、令和7年12月以降はタクシー料金改定等の影響により、増加傾向は鈍化した。

■ 事業評価（路線バス）※補助路線

利用者一人当たりの市負担額（年間補助額）の推移（補助対象期間）

区分	H28(基準年) (H27.10~H28.9)	R6(前年) (R5.10~R6.9)	R7(評価年) (R6.10~R7.9)
江南・病院線	36.7	124.7	161.6
江南団地A線 (古知野高校前経由)	42.9	108.9	121.9
江南団地D線 (ヴィアモール前経由)	24.8	59.3	84.8
江南団地E線 (団地経由厚生病院行)	190.1	269.7	321.3

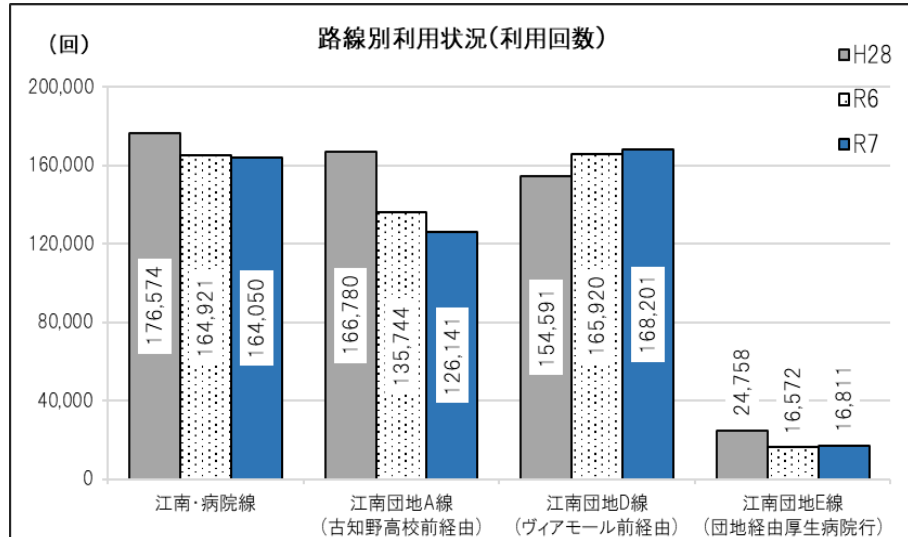
(単位:円/人)



年間利用回数（補助対象期間）

区分	H28(基準年) (H27.10~H28.9)	R6(前年) (R5.10~R6.9)	R7(評価年) (R6.10~R7.9)
江南・病院線	176,574	164,921	164,050
江南団地A線 (古知野高校前経由)	166,780	135,744	126,141
江南団地D線 (ヴィアモール前経由)	154,591	165,920	168,201
江南団地E線 (団地経由厚生病院行)	24,758	16,572	16,811

(単位:回)



■ 事業評価（路線バス）※補助路線

評価に関する考察（補助対象期間における前年度との比較）

【全体】 前年度と比較し、燃料費等物価高騰の影響により利用者一人当たりの市負担額の増加に繋がっている。

【江南・病院線】

- ・ 令和7年4月から、土曜・休日はフラワーパーク江南まで延伸され、土曜・休日は9便減少した。
- ・ 利用者一人当たりの市負担額は、前年度と比較して36.9円（30％）増加した。
- ・ 年間利用回数は、前年度と比較して871回（0.5％）減少した。

【江南団地A線】

- ・ 令和7年4月から、平日は11便減少し、土曜・休日は13便減少した。
- ・ 利用者一人当たりの市負担額は、前年度と比較して13円（12％）増加した。
- ・ 年間利用回数は、前年度と比較して9,603回（7.6％）減少した。

【江南団地D線】

- ・ 令和7年4月から、平日は4便減少し、土曜・休日は5便増加した。
- ・ 利用者一人当たりの市負担額は、前年度と比較し25.5円（43％）増加した。
- ・ 年間利用回数は、前年度と比較して2,281回（1.4％）増加した。

【江南団地E線】

- ・ 利用者一人当たりの市負担額は、前年度と比較して51.6円（19％）増加した。
- ・ 年間利用回数は、前年度と比較して239回（1.5％）増加した。
- ・ 江南団地～江南厚生病院間で利用実態調査を行った結果、高齢者の江南厚生病院への通院が主な利用目的で、利用者数は極めて少数である。

■ 事業評価（いこまいCAR）

市負担額の推移

	H28(基準年)	R6(前年)
市負担額	32,002,680	47,335,140 (迎車料金除く37,879,140)

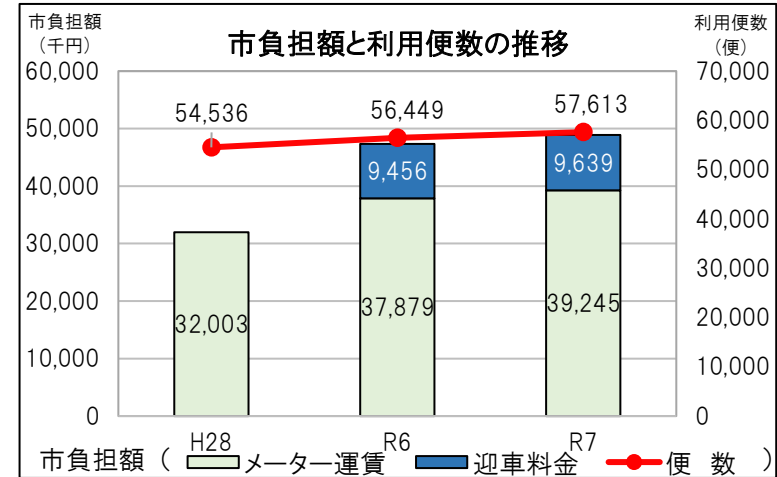


(単位:円)

R7(評価年)
48,884,320 (迎車料金除く: 39,245,320)

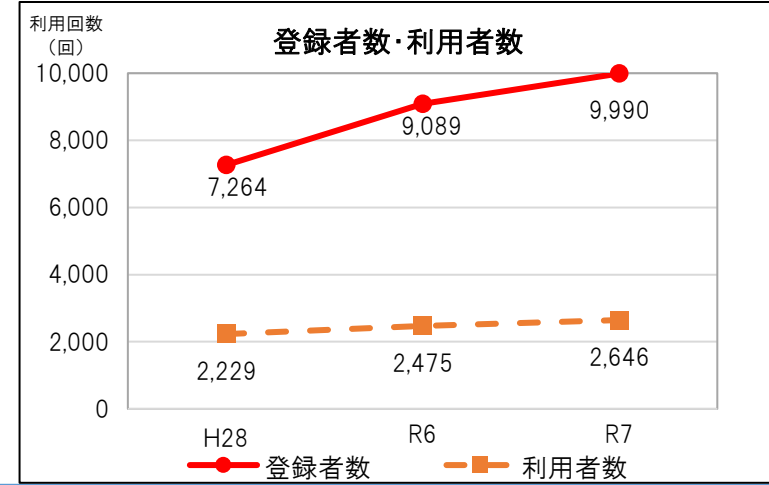
年間利用状況（※令和元年10月1日から立寄りを開始）

区分	H28(基準年)	R6(前年)	R7(評価年)
利用便数	54,536	56,449	57,613
利用回数 (=乗車人数)	63,900	65,346	65,795
登録者数	7,264	9,089	9,990
利用者数(登録者数のうち実際に利用した人数)	2,229	2,475	2,646
立寄り便数	—	1,153	593



評価に関する考察

- 登録者数が増加したのは、令和7年4月からいこまいCARと福祉タクシーチケットの並行登録が可能になったためと考えられる。
- 登録者数の増加に対して、利用便数が伸びなかったのは、令和7年12月のタクシー料金改定と、全事業者が時間指定予約料金を導入した影響によるものと考えられる。
- 立寄り便数が減少したのは、立寄り10分以内のルールを周知徹底したためと考えられる。



課題	
公共交通政策 (P5)	・公共交通全体の利用者数は減少傾向にあり、今後の人口減少により更なる利用者数の減少が懸念される。 ・高齢化が進展していく中、移動スタイルの転換を図る必要がある。
名鉄バス (P6.7)	・年間利用回数の減少や燃料費等物価高騰の影響により、利用者一人当たりの市負担額が増加傾向にある。
いこまいC A R (P8)	・登録者数、利用便数が増加し、市負担額も年々増加傾向にある。



対応方針（令和8年度取組み事項）
・公共交通基礎調査や地域懇談会等で把握したニーズや課題をもとに、既存の公共交通を整理し、新たな公共交通の導入を含め、フレイル予防や健康増進の視点も取り入れ持続可能な公共交通施策を検討・立案する。
・名鉄バス株式会社と連携して、路線バスを利用してもらえるようなイベントの実施・周知等を行い、バスの利用促進を図る。 ・江南団地E線の江南団地～江南厚生病院間、江南病院線のすいとぴあ江南（フラワーパーク江南）～江南厚生病院間の利用実態調査を実施し、ダイヤ改正や路線の見直し等を検討する。
・将来にわたって持続可能な公共交通とすべく、現在のドア・ツー・ドアからドア・ツー・ハブに転換を促す制度への見直しを検討する。 ・利用時間、利用回数の平準化に向けた取り組みを検討する。